



【調査の概要】

*「全国」は「全国・公立学校」の結果を、「大阪府」は「大阪・公立学校」の結果を表しています。

- 実施日：令和5年4月18日(火)
- 実施校数・実施児童生徒数 小学校：41校(6年生)・2,697人 中学校：18校(3年生)・2,657人
- 学力に関する調査
 - 学習や生活の状況・学校の取組に関する調査
 - 小学校：国語・算数
 - 中学校：国語・数学・英語
 - 児童生徒質問紙調査
 - 学校質問紙調査

【調査結果の取扱い】

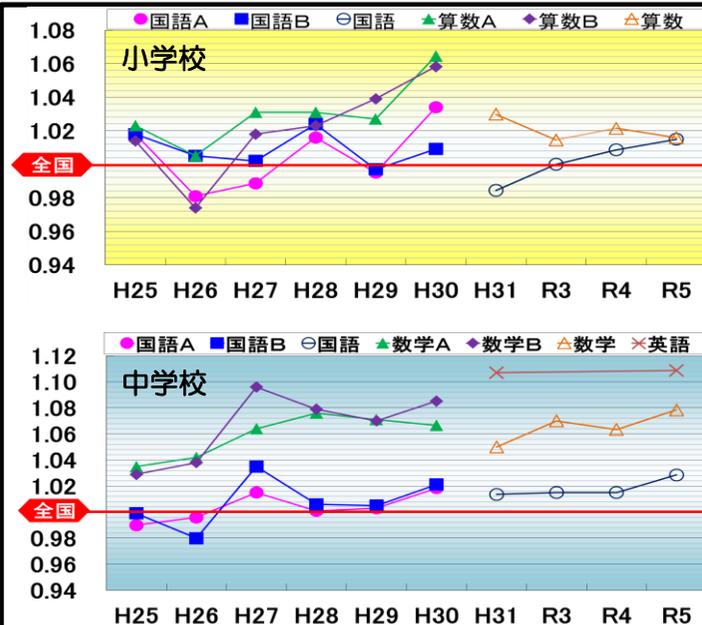
本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう十分配慮をお願いいたします。調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の一般的な学習状況の改善等につなげる事が重要と考えます。なお、文部科学省では市町村や都道府県の平均正答率を整数で発表することとなっており、本市でも平成31年度より整数での公表としました。

校種・教科別正答率 (大阪比・全国比)

令和5年度		高槻市	大阪府	全国	差(対大阪)	差(対全国)
小学校	国語	68	66	67	2	1
	算数	64	62	63	2	1
中学校	国語	72	68	70	4	2
	数学	55	50	51	5	4
	英語	51	45	46	6	5

※全国平均正答率は四捨五入して、整数にした値を表記しています。

経年比較 (全国比 H25-R5)

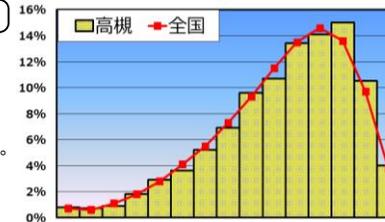


□良好 ■課題 正答数分布・領域等別正答率 (全国を1.0とした場合) / 対全国比

小学校国語 (設問数14問)

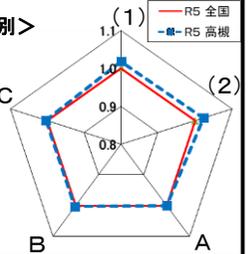
□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

- 解答の条件に沿って、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。



＜学習指導要領の内容別＞

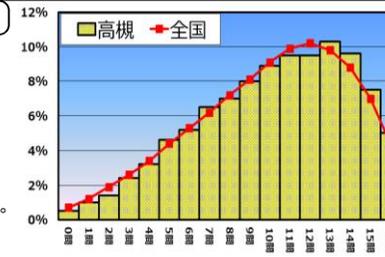
- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
 - (2) 情報の扱い方に関する事項
- A 話すこと・聞くこと
B 書くこと
C 読むこと



小学校算数 (設問数16問)

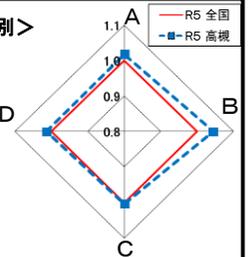
□伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、示された表の中の適切な数の組を選ぶこと。

- 伴って変わる二つの数量が比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを記述すること。
- 百分率で表された割合について理解すること。



＜学習指導要領の領域別＞

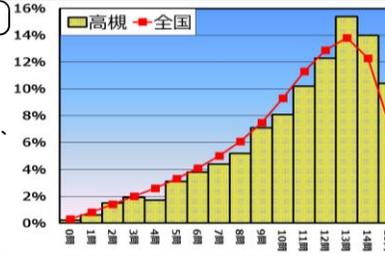
- A 数と計算
B 図形
C 変化と関係
D データの活用



中学校国語 (設問数15問)

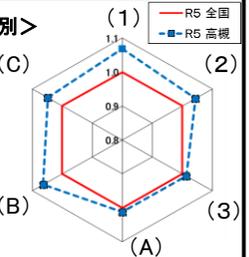
□文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること。
□自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。

- 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること。



＜学習指導要領の内容別＞

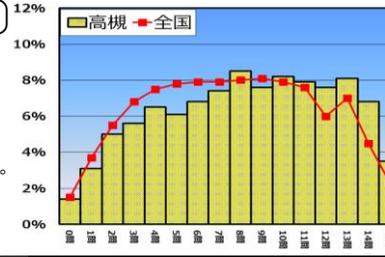
- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
 - (2) 情報の扱い方に関する事項
 - (3) 我が国の言語文化に関する事項
- A 話すこと・聞くこと
B 書くこと
C 読むこと



中学校数学 (設問数15問)

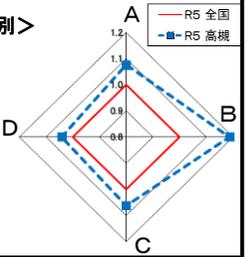
□目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。

- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解すること。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。



＜学習指導要領の領域別＞

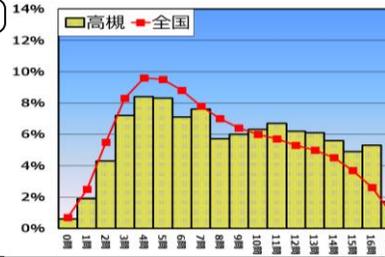
- A 数と式
B 図形
C 関数
D データの活用



中学校英語 (設問数17問)

□情報を正確に聞き取ること。
□まとまりのある文章を、最後まで書くこと。

- 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えること。
- 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと。



＜学習指導要領の領域別＞

- (1) 聞くこと
- (2) 読むこと
- (3) 書くこと

※「話すこと」調査の結果については、全国から抽出された当日実施校の結果のみ公表されています。

